

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年7月2日

【評価実施概要】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 常葉の家		
所在地 (電話番号)	掛川市大坂398-1	(電話) 0537-72-1700	
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成21年2月23日		

【情報提供票より】(21年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	14 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 16.8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	鉄筋 造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(2 月 7 日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	14 名	要介護4	6 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85.1 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥村医院(外科・胃腸科)
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

掛川市郊外の敷地面積も広く日当たり良好な田園の中に位置し、開設5年目を迎える3ユニットのホームである。目の前には広い公園があり子ども達の声が聞こえてきたり、少し離れたところにはスーパーや病院等があり、生活環境として快適である。管理者は、「利用者の笑顔が出る介護を」という信念の下、独自の理念を掲げ、利用者の自立支援に向け、できるだけ車椅子を使わない支援や、日中オムツを使用せず排泄介助や誘導を行う支援に努めており、家族との信頼関係も良好である。全職員で評価に取り組み、サービス向上に反映させている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を真摯に受け止め、サービスの質の向上に取り組む姿勢が伺える。栄養の摂取量に関しては記録用紙を見直し、より正確な状況がわかるよう改善した。介護計画書の改善については、同業者や行政からアドバイスを受ける等、受審によって、職員の意識の向上につながった。外出支援については、歩行困難な利用者も、外の空気に触れられるよう努めた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価を行い、管理者は全員の意見をまとめ、報告書を作成している。自己評価を行うことにより、自分に欠けているものは何か、どのようにしてサービス向上を図るべきか等、個々の職員に問題を提起し、仕事を見直す良い機会になった。評価によって職員の意欲の向上につながったが、まだ個々にばらつきがあると考えている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>3ヶ月に1度の開催を目標とし、実現に向けて、地域包括支援センター職員に意見を聞いたり、職員全員で積極的に活動している。福祉体験の受入れに際しては、中学の教師や生徒にも参加してもらい、意見交換を行った。今後は地域行事や家族会と併せて会議を開催したり、地域役員の参加を呼びかけるなど、会議をサービスの向上につなげられるよう取り組んでいくことを期待する。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>家族の来所時に、意見交換や受診報告をしたり、電話連絡により生活の様子を日々報告をしている。その際、意見や苦情を確認し、家族が不安にならないよう丁寧に対応し、関係作りに努めている。また、運営推進会議の参加者から、出された意見は運営に活かせるよう職員間で共有し、話し合っている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣に住宅がないので日常的な連携は難しいが、公園で住民へ声をかけたり、地域のお祭りの際は、駐車場を踊りや屋台の立ち寄り場として提供したり、小学校や中学校と交流を図るなど、少しずつ対応している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活をおくり、何らかの役割を持ちながら楽しく暮らす」という理念を掲げて、日ごろから職員は「利用者の笑顔が出る」介護に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝の引継ぎやケースカンファレンスの中で理念を確認し合い、利用者が毎日楽しく過せるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域のお祭りに参加したり、行事の時には駐車場を提供している。また、天気の良い日は隣の公園に出掛け、日常的に住民に声掛けをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は全員で自己評価を行い、管理者が報告書をまとめた。また、前回の評価の課題を反省し、改善に向けて、職員間で話し合い、取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1度開催できるよう努めている。開催にあたり、行政に相談に行ったり、他のグループホームの意見を聞くなど情報収集している。また、中学校と連携し、独自の開催方法を検討している。	○	今後も地域住民にグループホームや認知症に対する理解が得られるよう、引き続き会議への参加を働きかけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員とは交流があり、市開催の講習や研修等の情報を職員へ提供し、参加を促している。また、市担当者とは運営上の課題等、随時アドバイスをいただける関係にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話での報告の他に毎月、個人の暮らしぶりや健康状態、金銭出納帳等を行事や日々の暮らしの写真を添えて家族へ送付している。	○	行事や日々の暮らしぶりの写真、サービス向上への取り組み等をまとめ、ホーム独自のお便りとして発行していくことを検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際は、意見・不満・苦情等に耳を傾けるように努めている。家族からの意見や苦情等は職員会議で話し合い、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者の担当職員を決めて、馴染みの関係作りや支援の継続ができるよう配慮している。異動や離職による利用者にも与える影響もよく理解し、最少限に抑えるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の内部研修制度があり、職員が参加することになっている。また、運営者は外部研修の情報提供を職員へ行い、参加を促したり、資格取得を積極的に働きかけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム連絡会に参加したり、地域包括支援センター主催の同業者交流会に参加している。サービスの質の向上に向け、交流の場を増やしていきたいと考えている。	○	他事業所との交流を通じて、サービスの向上につなげられるよう、積極的に交流の機会を作っていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前にホームのサービス内容を詳細に説明し、本人や家族と十分に話し合い、納得した上で利用している。電話相談や事前見学にも、丁寧に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の声に常に耳を傾け、喜怒哀楽を共にしている。また、利用者の残存能力を活かせるよう、得意分野のできることを支援し、支え合う関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や日常の会話から、暮らし方の希望の把握に努めている。利用者は常に穏やかな表情で生活し、さりげない問いかけや寄り添いの中に職員のいたわりが感じ取れる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前に本人や家族から十分に聞き取りを行い、フェイスシートに記載している。また、家族の訪問時に職員と話し合いを行い、介護計画に家族の思いを反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは、市の関係者とも話合った結果、利用者の様子を考慮し、6ヶ月に1度行っている。変化があった際は、その時点で見直しを行うこととしている。モニタリング、アセスメントシート、担当者会議等により、現状に即した計画を作成しているが、ユニットごとで書式が異なる。	○	介護計画の書式をについて、職員で話し合い、課題・経過・今後の取り組み等をわかりやすく記録し、関係者が共有してサービスに活かしていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^が の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に応じた要望に対応できるよう、系列や近隣の事業所・施設と協力できる関係がある。また、利用者一人ひとりの受診・買い物への同行等、外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医や協力医への受診を希望に沿って同行している。利用者に同行することにより、利用者の状態をより把握でき、適切な治療を受けていただくことにつながっている。受診結果は家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は、主治医・看護師・家族・利用者の協力のもと、末期がんの利用者を看取った経験がある。今後は、職員の意識統一、物品等の準備、主治医との連携、家族の全面的協力等の条件を整備していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を守り、笑顔で穏やかな対応を心がけているが、まだ全職員には行き届いていない。個人記録は、利用者の見えない所で記入したり、個人情報、事務所内で管理するなど配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たい利用者には、付き添い、おはじきや家庭菜園等、一人ひとりの希望に添った支援をしている。職員は、散歩や買い物等で外出することは、社会と接する大切な機会と捉えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が声かけをしながら、利用者と一緒に食事の準備や片付けをしている。食事を楽しくするために、職員と利用者が一緒に食卓を囲み、会話や見守りの支援を行っている。検食者以外は弁当を持参している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は設定しているが、個々の利用者の希望に添って、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を活かした支援を心がけている。調理士だった利用者と一緒に調理し、職員が教わることも多い。また、洗濯物干し・取り込み・たたみ等、利用者が役割を持てるよう支援を行っている。利用者の多くが元農家のため、特に菜園作りに力を発揮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	受診のための外出を最優先としているが、近くの公園やショッピングセンターへ買い物に出かけ、気分転換の外気浴をするように心がけている。月1～2ヶ月に1度は車で出かけて、花見や外食を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、帰宅願望者には、常に見守りを行い、外へ出る時は付き添い対応している。職員が一人の時は、やむを得ず施錠する場合もあるが、日常的に洗濯物やふとんを干したりと自由に入出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施している。火災警報器の点検時に訓練を行ったり、大規模の訓練を見学に行き、消火器の使用訓練を行っている。	○	実践に役立つよう、充実した内容の訓練を期待する。訓練に地域の人々の参加が得られるよう計画し、災害時には、非難場所としての提供や物資備蓄の確保も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部の方針で、昼・夕食の献立は業者から材料が配送されており、栄養バランスやカロリーが献立表に記載されている。朝食は、夜勤者が作り、菜園で採れた物を取り入れている。食事摂取量は、主食と副食に分けて摂取量を記入し、水分は、不足の無いよう、飲まない人にも、提供時間を工夫して補うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、利用者の笑顔一杯の写真、習字、折り紙で作った雛飾り・桜の花等を掲示したり、雛人形のケースが置かれており季節感が感じられる。テレビの前には、長椅子が置かれ、寛げるペースがある。また、フロアには西日が入るため、カーテンで調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室は東側にあり、晴れの日には朝日が入って気持ちが良い一日が始まる。室内には、カレンダーや絵等が飾られ、家から持ち込まれた家具の上に小物が置かれ、掃除も行き届いている。		